

「ラーニング」と言うこと

総合政策学部長

おおはし
大橋
まさかず
正和



英語では、高校までの教育を「エデュケーション」といい、大学以降の教育を「ラーニング」と区別する。

エデュケーションとラーニングの違いは何かというと自律的に学習できるかどうかの違いである。高校までは、教科書がありそれに従って勉強をし、ほとんどの問題は、解答が存在する。

大学の教育がラーニングと呼ばれるのは、自律的に学習する方法を身につけるとともに問題の発見、問題の解決方法などにより新たに知識を創造する方法を学ぶことにある。しかし、学問には体系がある。たとえば、数学という学問の体系を考えてみればよくわかる。順番に積み重ねをしないと理解できない。1度理解できなくなるとそれから先はついて

いけなくなり数学嫌いを作り上げることになる。

ラーニングで大事な点は、個々の体系を学ぶばかりでなく学問に関する考え方やものの見方といった個別の事実からその原因や考え方を追求し普遍化された共通の原理や理論を見つけ出すことである。大学で学んだことの中で細かい事実は忘れてしまふことはあってもこのような基本的考え方やラーニングの方法は忘れないものである。大学で学ぶと言ふことは、授業ばかりでなく課外活動や授業期間外にも学び(ラーニング)の姿勢を忘れないでほしい。

どうか諸君の大学生活がエデュケーションではなくラーニングであることを願ってやまない。